

# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

## JUNE 2017

vol.38

| JUNE |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|----|----|----|
| S    | M  | T  | W  | T  | F  | S  |
|      |    |    |    | 1  | 2  | 3  |
| 4    | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 |
| 11   | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18   | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25   | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |    |

### ◆三河地震探索ドライブルート

今月は、昭和 20（1945）年に発生した三河地震にまつわる碑や史跡と周辺の名所を巡るドライブルートを紹介します。ドライブルートは西尾市を出発し、幸田町を経て蒲郡市に至る、8 つの碑や史跡を巡る総延長約 25km のルートです。

出発地点の**金蓮寺**（地図①）には、愛知県最古の木造建築物・国宝金蓮寺弥陀堂があります。弥陀堂は、昭和東南海地震・三河地震により被害を受け、一時期はつかい棒などにより倒壊を防いでいるという状態（写真）になっていましたが、その後、創建時の姿に復元することを目標とした大改修が行われ、現在は美しい姿に修復されています。



地震後の弥陀堂  
「金蓮寺物語」より

次に訪れる上横須賀町の**春日神社**（地図②）には、三河地震で犠牲になった氏子を供養するための、三河大地震之碑が建てられています。碑文には、春日神社の氏子だけでも 130 人が犠牲になったことが記されているほか、福泉寺門前にてお湯が噴き出すと記され、液状化現象が発生していたと思われる記述も見られます。（2016.8 月号参照）



三河大地震之碑

続いて**室場の土地改良碑**（地図③）を訪れます。三河地震の断層線上のこの地域では、地震による地盤変動で用排水路が機能を失い、凄まじい被害となっており、この碑には、被害の状況



室場土地改良碑

とその後進められた土地改良の完了を記念した言葉が記されています。

このあと、平原の滝（裏面で紹介）で少し休憩を挟み、道の駅 筆柿の里・幸田に立ち寄ったあと、三河地震を引き起こした**深溝断層の断層跡**（地図④）を訪れます。ここは地震の際に約 1.5m の隆起と約 1m の左ずれが生じた場所で、昭和 50 年に愛知県の天然記念物に指定されています。現在は、断層を間近で観察するための遊歩道が設けられており、土地の隆起が理解できるように、断層の上盤面と下盤面に、地盤のずれの量を示す支柱が設置されています。（2017.1 月号参照）



深溝断層

深溝断層の次は、**本光寺**（地図⑤）に向かいます。本光寺は、徳川將軍家を支えた 18 松平家のひとつ・深溝松平家の菩提寺で、歴代当主の埋葬地が築かれています。三河地震により東の廟所の土塀が崩壊する被害が発生しています。土塀は当時の状況のまま残されており、地震による揺れの強さを物語る遺構としてどのように伝え残していくかが検討されています。なお、本光寺は三河のあじさい寺としても有名であり、宝物館には、墓所の発掘調査で見つかった、金の小判やギヤマンの祝杯のレプリカなど、深溝松平家にまつわる宝物も展示されています。（2014.6 月号参照）

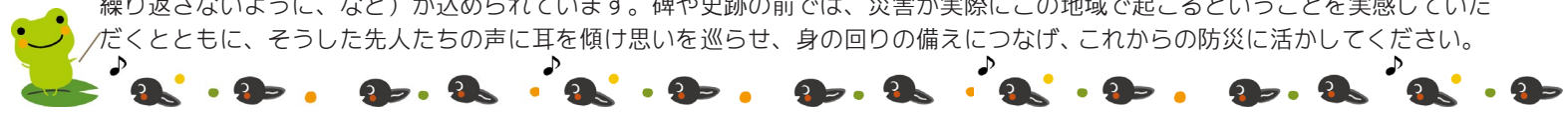


本光寺の崩れた土塀

また、近くの幸田町郷土資料館では、深溝断層の剥き取り標本が展示されています。



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。





続いて蒲郡市に入り、最初に訪れるのは**宗徳寺**（地図⑥）です。宗徳寺の本堂裏側の雑木林には、三河地震によって生じた地割れがそのままの姿で保存され、市の天然記念物となっています。また、境内にある番神堂は、地震による隆起で大きく持ち上がっており、隆起した分の段差に階段が設置され、現在も使用されています。

その後、形原温泉で少し休憩し、**形原神社**（地図⑦）に向かいます。形原神社の境内には、三河地震の大災害を受けてから 33 年目を記念して、三河地震記念事業により建立されたわすれじの碑があります。この碑には「犠牲者の霊を慰め、且つまた後の世の戒めとしたい」という有志の願いがこめら



宗徳寺の地割れ



わすれじの碑

れており、毎年、成人の日には「忘れじの碑慰霊祭」が行われています。（2015.1 月号参照）

最後は**天満神社**（地図⑧）です。天満神社には、三河地震で折れた鳥居の残骸の石の柱が残されています。このあたりは断層位置の近傍であると考えられ、周辺の道路の傾斜（西側が上がっている）から断層活動を読み取ることもできます。



天満神社の折れた鳥居

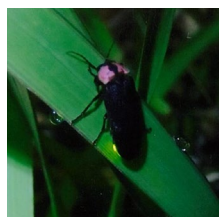
このドライブルートを通ると、三河地震で被害の大きかった場所がわかります。ひとつは幸田町、蒲郡市の断層の近辺、もうひとつは地盤の緩い平野部です。（西尾市や安城市には、ルートには入っていない碑も多数あります。）

碑や史跡の位置と地勢との関係をイメージしながら、ルートを巡ってみてください。

## ★ 平原ゲンジボタルの里とホタルまつり

西尾市東部の丘陵地の平原地域には、昆虫や鳥、花など、自然が多く残されています。この平原地域周辺の沢では、ゲンジボタルの餌となるカワナが生息しており、「平原ゲンジボタルの里」として、ゲンジボタルの飼育と研究が行われています。

平原ゲンジボタルの里では、毎年 6 月にホタルまつりが開催されます（平成 29 年は 6 月 9 日～13 日、午後 7 時 30 分から）。敷地内に設置された木道から鮮やかなホタルが観賞できるほか、近くの小学校の児童



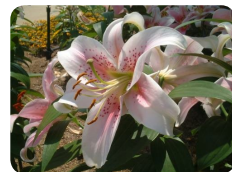
西尾市観光協会 HP より

によるホタルガイドやラムネ・団子の販売などもあり、数多くの鑑賞者が訪れます。また、ゲンジボタル以外にもヒメボタル（5 月上旬から中旬）、ヘイケボタル（6 月下旬から 7 月中旬）、クロマドボタル（6 月中旬から 7 月中旬）が生息しており、ホタルまつりの期間以外にもホタルに出会うことができます。

### 6 月のあいちの花

平成 29 年 6 月のあいちの花は、ユリです。

ユリは、北半球の亜熱帯～亜寒帯に分布する球根植物で、秋に球根を植



オリエンタル・ハイブリッド  
ヤサシイエンゲイ HP より

えると初夏～夏に花を咲かせます。花壇や庭植えの他、鉢植えや切り花にも利用されます。

筒状の長い花が横向きに咲くテッポウユリ、じょうご形の花が横向きに咲くヤマユリなどの野生種のほか、園芸品種も豊富で、中でもオリエンタル・ハイブリッドはゴージャスな雰囲気を持つものが多く、白花大輪のカサブランカが有名です。

### ●ブレイクタイム●

#### ♪ 平原の滝

平原の滝は、平原ゲンジボタルの里のすぐそばにある、古来から信仰の対象になっている滝で、一帯はパワースポットの趣があります。清和天皇の御世に慈覚大師によって開かれたといわれており、大師が薬師如来の仏像を祀ったことから、薬師の滝とも呼ばれていました。滝水を飲めば長寿に、うたれれば難病が治ると伝えられ、7 月第 1 日曜日の滝開き行事では、厄男たちが滝にうたれ、無病息災を祈ります。

また、少し急な山道を登りますが、付近には展望台があり、晴れた日に名古屋駅まで見渡せる景色は壮観です。



◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 29 年 6 月）